

平成20年度 第15回 経営審議会議事要録

日 時 平成21年3月10日（火）14:30～17:30

場 所 北方キャンパス本館 E701 会議室

出席者 <委員>阿南理事長、矢田副理事長（学長）、出口理事、
近藤理事（副学長）、松藤理事（副学長）、尾上理事（事務局長）、
明石委員、石丸委員、稲積委員、下村委員、高橋委員、富浦委員、中津井委員、
（奥監事、清原監事）

配布資料

- 平成21年度計画案について
- 1-1 北九州市立大学の改革の経過と展望
- 1-2 学部・大学院の再編
- 1-3 平成21年度計画の主要な取組み（案）
- 1-4 平成21年度計画（案）の概要
- 1-5 平成21年度計画（案）
- 2 平成21年度予算案について
- 3 役員報酬規程の改正について
- 4 経営学研究科の廃止について
- 5 監事監査規程等の整備について
- 6 大学運営体制について
- 7 教育開発支援室の設置
- 8 転学部制度について
- 9 入試広報戦略について
- 10 平成21年度入試状況
- 11 大学の地域貢献活動について
- 12 就職状況について
- 13 外部資金の獲得状況について
- 14 平成21年度入学者に対する入学金納付の猶予

議事要旨

第1号 平成21年度計画案について

・平成21年度計画案について説明

【議長】本議案について原案通り承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第2号 平成21年度予算案について

・平成21年度予算案について説明

【議長】本議案について原案通り承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第3号 役員報酬規程の改正について

・役員報酬規程の改正について説明

【議長】本議案について原案通り承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第4号 経営学研究科の廃止について

・経営学研究科の廃止について説明

【議長】本議案について原案通り承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第5号 監事監査規程等の整備について

・監事監査規程等の整備について説明

●監事監査と内部監査はどのように使い分けるのか。

○監事監査は今までも行ってきた。内部監査とは、法律の規定はないが、契約業務等日々の業務の監査を行うもので、対外的に公表等は考えていない。業務実施の際の指導を目的とする。

●監事監査も会計のみの監査ではないが、内部監査も内容は同じか。

○内部監査は監事の補完も行い、細かい部分の是正・指導を行う。

●監査室の職員数は何人か。

○常勤職員は置かない。監査実施の際には、総務課経理係と関係部局長でチームを作り、監査を行う。

●専属がないのでは、十分にはできないのではないか。

○公的資金の監査等を既に行っている。その辺を鑑みて、できると考えている。

●監査の際には、実地も必要。専門的な技術・人的配置が必要だと考える。参考までに申し上げます。

○監査にあたっては、監事・監査法人に相談しながら、行っていきたい。今後ともご指導いただきたい。

【議長】本議案について原案通り承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

報告事項

・事務局より、以下の項目について報告された。

1 大学運営体制について

- ① 役員・経営審議会委員
- ② 平成21年度教員人事
- ③ 教職員数

2 教育改革の推進について

- ① 教育開発支援室の設置
- ② 転学部制度

3 入試について

- ① 入試広報戦略
- ② 平成21年度入試状況

4 大学の地域貢献活動について

5 その他

- ① 就職状況について
- ② 外部資金の獲得状況について
- ③ 平成21年度入学者に対する入学金納付の猶予

【転学部制度について】

●転学部制度は、好ましいことだが、例えば工学部から経済学部へ何十人も転学部者が出た場合、どう対応するのか。限度を設けるのか。他大学の例だが、入学しやすい工学部へ入学し、入学後経済学部へ転学部するということがあった。

○制度の検討の際に、その点についても十分に検討を行った。試行錯誤はあるので、その経験を踏まえ、制度を成長させていきたい。

【入試広報戦略について】

●広告宣伝について、ITによる情報提供を考えているのか。受験生にとって、紙媒体よりIT媒体の方が、受けが良いようだが。

○昨年末から、ホームページの見直しを始めた。重要なメディア・手段と考え、今後の改良を考えている。

○全国大学のユーザビリティ調査（日経BP）で、ホームページのランキング、九州の国公立大学で2番目、全国でも18番目に位置している。

●高校生を対象としたホームページは少ないように感じる。高校生をリクルートするようなホームページの設計を望む。

○その点も十分考慮しながら、充実を図っていきたい。

【平成21年度入試状況について】

●後期日程合格者の辞退率はどの程度か。

○平成20年実績で、後期日程合格者の2割程度が辞退。

【大学の地域貢献活動について】

●北九州市教育委員会との連携協力による包括協定について、今年から学生ボランティア事業を開始するとあるが、各自治体において初等教育に対する支援に力を入れている。奈良市では、周辺大学を取り込んで、組織的に行っており、教職志望の学生を中心に行われている。大学の取組みが、市のパイロット的役割になるのではないか。

○内容としては、学校教育支援活動や生涯学習活動、国際交流の推進など、全学的ボランティア、教職学生のみならず地域創生学群地域ボランティアコースの学生等を取り込んで行いたいと考えている。

○地域ボランティアコースの実践の場と位置づけている。

●最近、心理学の専門家が医師と一緒に、学習困難児や自閉症の児童等に対する取組み・検討を行っている。また3歳から5歳児に対する研究等も進められている。その様な状況であるので、その点について地域貢献を行うことは、大事なことであり、必要性が高い。

●特別支援学級のサポートはニーズが高い。補助教員や課外活動支援のボランティアもいいが、現場の専門的ニーズが非常に高いのは、大学の特性を活かした専門的な教職課程を目指す学生、特に特別支援に対応できる学生ニーズが高いが現状である。その点について、検討しているのか伺いたい。

●鳥取大などでモデル事業を始めており、自治体がバックアップし、注目を浴びている。

○文学部の教育学・心理学の教員が市の各種委員会に関与したり、臨床教育学の教員が教育現場で生じる問題に対して個別に支援したりしているが、現在のところ大学として組織的な関わりは弱い。ボランティアにどう取り組むかは、今後検討したい。学生ができること、大学としてできること、教員・研究者としてどう関わることができるか、考えたい。

○地域創生学群は、そういった専門的人材の育成が使命。大学として強力に進めていきたい。

●学習困難児のみならず、育児放棄した母親の問題等、様々な問題がある。ぜひ、研究をすすめていただきたい。

【就職状況について】

●就職に失敗した学生のセーフティーネットみたいなものは組織的に考えているか。

○これまで考えていなかった。学部別で就職決定率に違いがあるので、学部別・出身地別の指導を検討したい。ただ、セーフティーネットは今後の課題。

●セーフティーネットを組織化しPRすると、面倒見のいい大学と評価される。是非検討して欲しい。

●就職者のうち、市内就職が何%、県内就職が何%か。

○昨年度実績で、市内14%、県内(市外)23%、九州(県外)8%。

○本社が東京で、就職後の配置が地元九州というのも相当数いるが、それは、統計上出ない数字。

【外部資金の獲得状況について】

●外部資金(共同研究・奨学寄附金)間接経費の中で本部吸い上げ分はいくらか。

○共同研究・受託事業については10%、奨学寄附金については15%で、基本的には大学の管理運営に使っている。

●北方キャンパスの外部資金を増やすには、今までと違った新しいことをしないと難しいと思われる。例えば、北九州市立大学は中国語教育に特色があるので、中国からの留学生の日本語教育を行うなど、今までのように共同研究、受託研究だけでなく、地域の課題を見つけて、行政ニーズにあうようにうまく提案するようなことを行わないといけないのではないか。

○文系の受託事業等が減っているのは市の随意契約に対する社会的批判の影響も考えられる。科研費については文系でも30代の若手教員のほとんどがエントリーしており、獲得率は高いので、じわじわと増えてくると考えている。

●科研費の審査委員はどれくらいいるのか。

○何人かいる。

●そういった方に申請書の書き方等指導してもらったらどうか。

○組織的に行うと負荷がかかる。明らかに、獲得金額の両キャンパス間の開きは大きいので、深刻な課題であると考ええる。

●都市政策研究所について、都市協会時代には総務部があり、営業を行っていた。大学の営業支援部隊が必要ではないか。

○そのための教員を採用しており、必要に応じて人員の配置は行うが、あまりやりすぎると負荷がかかるので、バランスよく行いたい。

次回開催について

議長から、次回審議会の開催については、日程調整の上、あらためて連絡を行う旨説明があった。